

ロータスルート さあ、つながって行こう! みんなで花を咲かせよう!!



Report

<http://www.myohokkein.jp/>

2026年(令和8年)5月23日発行  
「ろおたす」からの〜通算427号

Vol.46

日蓮宗

正中山別院 護国山妙法華院

〒652-0816 神戸市兵庫区永沢町4-5-8  
TEL(078)575-2608 FAX(078)577-7651  
kobe@myohokkein.jp

# ヒトとヒトとの間にあるヒミツ

## 言葉によって社会の空気を換える



### 仏や神は空気の中に存在する

貴方は仏さまや神さまはどんな姿だと思いますか? 私達は仏像や仏画を見ているので、漠然とこんな姿なのかな...というイメージを持っています。しかし実際には見たことがありませんよね。ということは仏さまや神さまの正体は、私達には見えないものと断言できます。人の眼に見えなかったら存在しない...という否定は出来ません。コロナやインフルエンザウイルス花粉だって見えません。電波も受信すればテレビが映るし、Bluetoothが繋がれば音楽が聞けます。見えなくても空気中に存在するモノは沢山あるわけです。亡くなったご先祖の霊も見えないけれどもいらっしゃいます。ということは仏さまや神さまは空気の中におられるのではないのでしょうか。

それを  
言われているのが  
お自我惚です。



### 空気は時代によって変わる

よく「昔と今」という表現が使われます。確かに時代によって世の中の空気感は変わります。かつての昭和は「皆んな一緒」が当たり前の社会でした。同じ教育を受けて良い会社に入って終身雇用。結婚して子供を生み、家庭を作る。マイホームを持つことが人々の夢でした。しかし今は個性が強調される時代となりました。結婚しない人や子供を生まないという選択肢が増え、転職も当たり前の自由な空気が流れています。こうした時代の雰囲気は誰が作っているのでしょうか。それは人間ひとり一人の行動や言葉によって創られていきます。テレビの影響や政策によって社会に大きく影響を及ぼすことはあるでしょう。しかし結局、テレビも政治も人間が動かしているので私達の心がカギです。



釈尊の出世の本懐は  
人の振舞に候けるぞ

おきらく  
日記

### クラシックパンツ 2026年2月3日(火)

クラシックパンツ...要はフンドシの事である。皆さんは、あまりフンドシが売られているのを見たことが無いだろう。ライブでもイオンでも取り扱っていない。私が水行の時に使うフンドシも初行の時に、檀家のご婦人方に大量に縫って頂いたのが、今だに残っている。しかしこの度、衣類を整理していたら、商品として包装されたクラシックパンツが出てきた。私自身、いつどこで買ったのか全く覚えていない。せっかくなので今日の節分で使ってみたが、ちょっと前の垂れが短かった。単純な作りなのだが、履き心地や透け感・長さなど、使用者はそれなりに拘りもあるのである。この商品は500円からプライスタウンされて、当時150円で買ったようである...。手書きの値札に哀愁が漂っていた。



何のために生まれて  
何をして生きるのか  
応えられないなんて  
そんなのは嫌だ

何が君の幸せ 何をして喜ぶ  
判らないまま終わる  
そんなのは嫌だ

私達の魂というのは人に見えない姿が本来です。人間として命を頂き、呼吸をしている時間は仮の寿命なのです。昔の人はそれを判っていたので、現代社会の随所にその名残があります。漢字から少し見てみましょう。人間としてこの世に生まれたのは「誕生日」。「誕」の訓読みは「いつわる」「うそをつく」という意味です。「仮の姿で言葉が発する時期を延ばす」という意味なので、寿命は修業期間を頂いた目出度い命の時間。そして亡くなると「命日」。本来の命に還った日という事で、普通に言うなら「死日」のハズです。「生前はお世話になりました」「死前」とは言いません。四十九日までを「忌中」と言い、「己の心の中」と書く。中陰の間に、本人の生きていた心の善徳で来世の行先は決まります。神も仏も自分の心の中に居られるのです。神社のご神体の前に鏡があるのは貴方の心を映すため。「かがみ」に映った自分の「我」とすると「神」に。「私」の中の「貪・瞋・痴」という3つの煩惱を消すと「仏」になります。私達は徳を積み修行のために生まれてきています。そして本来の魂の姿に戻り見えなくなってしまうと、もう自分で自分の魂を磨くことは出来ないのだ、ということをご自身には知っておいて欲しいと思います。

我 かがみ 神  
私 仏  
貪 瞋 痴

住職 新聞記者



空気を読む力


現実には地球上では戦争が行われており、物価も高騰し日本人の生活にも大きく影響が出てきています。そんな中で日本政府は武器の輸出を決めました。日本で作られた製品が人殺しに加担するわけです。その日の同じニュースでは自衛隊の戦車が爆発して隊員が尊い命を落としました。仏さまは通告しています。核戦争が起きて人類が減る前に、正しい考え方を持たないと間に合わない。一たび有事が発生すると日本にも核は飛んできます。その状況になると人間は理性をたもてなくなり、一気に孤独と不安が押し寄せて社会は不穏な空気に包まれます。この事は歴史から私達は学んでいるハズなのです。「お国のため」「日本のため」その同調圧力に抗えなくなり自滅します。今、この世の空気が私を感じる中で、60年も前の子供の頃に見ていたウルトラセブンの作品の数々を思い出さずにはいられません。読んでみて下さい。貴方は何を感じますか？

言葉で空気を伝える

それではどうすれば良いのか。一つのお寺や私が出ることなんて限られています。政治や経済、あるいは世界の大きな流れを変える事はできないでしょう。それは判っています。貴方は仏壇に手を合わせる時に何を祈っていますか？恐らく自分の先祖の成仏や家庭円満や健康等家族の幸せを願っている人が多いのでは無いでしょうか。3月23日の唱題のつどいに、智海の友人の若いミャンマー人の女の子が飛び入り参加しました。ミャンマーは紛争地域、そして地震もありました。その子が祈っているのは「平和」でした。祈りは口に出して祈らないと世の空気は変わりません。言葉には魂がこもっています。それを空気に放出して世の中全体を良い空気感に皆で変えていくのです。「そんなちっぽけな努力で変わるわけが無い」と思っている貴方は大きな間違いです。そしてどうしたら人類は平和になるのかを一生懸命に考えることは出来る。人間関係の信頼を構築することもできる。私達が今できることは身近なところで正しい考えをもつこと。家族や友人、地域、檀家同士で信頼関係を構築して同じ意識を持つ仲間を輪を少しずつ広げていくのです。それによって不穏な空気に流されず、自分の考えに自信が持てるようになるはず。私達がフランスの言葉を発することによって世の中の空気は変化します。その代表的な言葉が「南無妙法蓮華経」なのです。

昔の特撮が現実味を帯びてきた今...第42話  
**ウルトラセブン「ノンマルトの使者」**

ノンマルトは人類の登場以前に地球上で高度な文明を築いていた知的生命体。人類の登場で拠点を海底に移し平和に暮らしていた。ところが人類の侵略(開発)が海底にまで進行してきたことを受けやむなく攻撃を行う。「人間は侵略者」という主張とエゴにまみれた海洋開発の考えは受け入れられず戦いを決意する。しかし怪獣ガイロスはウルトラセブンに倒されたうえ、ウルトラ警備隊の反撃に遭って海底都市も侵略基地と認識されてミサイル攻撃で撲滅された。前から1人の少年が開発の事を何度も警告していたのだが誰も聞き入れなかった。彼の最後の声に呼ばれたアンヌとダンがたどり着いたのは、2年前に海で事故死した彼の墓標。人間が本当は地球の侵略者であるという常識を根底から揺さぶった作品である。



空気は運と縁

私達は「運」や「縁」と聞けば偶然だとか自分の力では及ばない、見えない神サマの引き合わせというような認識で感じています。しかし私は違うと思うのです。それはその人の「考え方」や「行動」から生み出されるものだと感じます。例えば筋トレを毎日続けることと決めたならば、それを続けた効果も大きいとは思いますが、むしろ続けられる精神面の充実の方が大きいのです。その努力が自分を信頼するという自信に繋がり、次に何かにチャレンジする時に力を発揮しやすい状態になるのです。そのようなプラスの流れに身を置くことによって、様々な物事が前向きに捉えられるようになって「運」が味方してくれると感じるようになります。また「縁」も人が作り出しています。皆さんが周りにいる人をどれだけ大切にしているかによって、その流れは決まります。自分にとって得になる人や利のある人しか大切にできないような考え方は、周りの協力は減っていきます。自分に関わる人全員に対して優しさや誠実さをもって感謝できる人間にならなければ、応援はされません。良い繋がりには、必ずまたさらに素晴らしい巡り合わせを生み出します。

鼻息を欠かさばい人は先祖に感謝している人



国境をなくして世界政府を立ち上げる。地球レベルで政治・経済・金融・通貨・言語・社会政策の統一を行うという考え方を新世界秩序と言う。実現には色々なハードルがあり、この考え方には陰謀論もあるので、両手を振って賛成だとは言いきれないですが、私は基本的には良いと思っています。しかしこれを目指すの一番大切なことは共通の理念です。それを担うのは仏教であり法華経だと考えています。



今回、空気のお話をしているのですが、私は法華経の中では「虚空」という言葉に言い換えられるのではないかと、思っています。




日蓮宗の僧侶は必ず毎朝、地球上の「国土安穩」「五穀豊穡」「世界平和」「万民安樂」を口に出して祈っています。

お経の行間の空気

生成人工知能(AI)に東大の入学試験問題を解かせたら、合格者の最高得点を上回り「首席合格」を果たしたと新聞記事にありました。最難関の東大理科3類の点数は合格者より50点も高かったと載っていました。数学は満点だったそうです。でも私の感想は「完璧では無いんや〜」でした。日本語の要約や論述は苦手なそうです。「文脈により筆者が何を言おうとしているかは変わる。文章全体をとらえ、推敲を重ねる作業はまだ得意ではない」と記事には書いてあり皮肉を解釈する問題は点数が低かったそうです。お経もそんなのですが、お経に書かれている文字が全てではなく、その行間にあるお釈迦様の想いを汲み取る

昔の特撮が現実味を帯びてきた今...第43話  
**ウルトラセブン「第4惑星の悪夢」**

ダンとソガは宇宙ロケット「スコピオン号」で、地球そっくりの惑星に迷い込む。そこは人間型のロボットが支配している星だった。この星では人間が奴隷なのである。車に少年がはねられそうになるのだが、この星では車は避けようがないので逃げなかった人間である少年の方が悪いとされる。これを逆に被害者の少年を機械、車を運転している側を人間として考えると私達は機械の方が悪いと考える。ロボット長官の元へ秘書がコーヒーを運んできたのだが、「ぬるい！砂糖も多い！」と長官は激怒する。データ通りにやったという秘書に散々暴力をふるった挙句、長官は言う。「どうも人間は物覚えが悪い。コーヒーの味が毎日違うんだからなあ」機械はいつも同じ動作を確実に繰り返せるが、人間はそうはいかないという場面。コンピューターとロボットによるオートメーション化の行き着く先を描き、盲目的な科学万能主義を批判した作品である。



行間の空気を読むことを徹底秘伝といえます

人間なんて...ララララ




人と人との間にある空気、それがあから人間となる。人が沢山いるから人間社会が作られる。今は携帯で簡単に人と人が繋がれる社会、昔と比べると直ぐに電話やメールで連絡が取れるようになりました。遠距離恋愛の切なさのようなものもSNSが繋がってはいれば、もうあまり無いのかも知れないですね。しかし一方で「イヤね」や「拍手の数」「再生回数」が気になるなど、自分と人をすぐに見比べたりして反応を気にしすぎる傾向になっていきます。書き込みに至っては知らない人から誹謗中傷を受けて自死したり、酷い人と社会問題にまで発展します。関わりすぎると人に疲れ、人と距離を置きすぎると孤独に感じる。それほど人間は、人と人との間で右往左往しながら生きていくのです。しかし自分に自信をもって生きていく事をお釈迦さまは教えてくれています。私達の見えない心の中にも仏サマや神サマはいらっしゃるのです。

2026年3月12日(木)

最後に受け取ったメールの文面が、怪しかったので嫌な予感を感じて見舞いに行こうと決めたら寒風と節分で忙しかつたので、節分明けの4日に見舞いの予定をしていただけましたか？と連絡が入り「明日予定している」と返信した。4日の朝...「重篤になったので本日のお見舞いは結構です」と断りのLINEが入った。彼女は、その3日後に遷化した。ショックだった。後悔しても仕方がない。今から私に出来ることは何かを模索し、追善法要と偲ぶ会を企画した。この悲しみを少しずつ、心の一部になるように時間をかけて馴染ませていきたい。

名引常観会長 スライドショー 追善法要と偲ぶ会



お食事処「世海」春夏冬中 お寺で飲食業を始めます。

次男がお寺に帰ってくるようになったので、運営会議を経てお寺で飲食業を運営することにしました。3階台所を改修し設備を整え、保健所に申請を出しました。立ち入り検査も無事に通過して、めでたくお寺に飲食店営業の認可が4月2日付で下りました。これに向けて6年間は収益事業として、お寺の中にレストランを開業できます。屋号は俗名そのまま「世海」です。当分は団体のみの予約制で運営します。法事後のお食事はご相談に乗ります。デザートも出来ます。

**世海**



箱とメバル飯 出汁茶漬け  
お造り  
八寸  
牛ランプ碗豆餚  
蓮根饅頭  
出汁巻青さ餚

